

## 第2次ちば文化振興計画 計画期間5か年の総括について

## ○ 前計画の5つの施策の柱

- 1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり
- 2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり
- 3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出
- 4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築
- 5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上

## ○ 前計画の指標

前計画で掲げた指標は、次のとおりの結果となっています。

指標	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
この1年間に文化芸術に触れた県民の割合	63.4%	59.1%	59.9%	67.4%	69.5%	70.0%

文化芸術に触れた県民の割合は、目標の70.0%に対し、前年度の実績を下回った年があるものの、69.5%とほぼ目標に到達しました。

本指標は県政世論調査の結果ですが、「文化芸術」の範囲を狭く捉えている人が多いと考えられたため、設問の「文化芸術」の例示を工夫したこと、また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、県及び市町村で文化事業を積極的に実施したことから、実績が伸びたと考えられます。

なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント等の中止も多くありましたが、設問で、新たな芸術鑑賞の手法として取り組まれているオンラインでの鑑賞を対象に加えることを明記したことにより、実績値は前年度より上昇しました。

しかしながら、県が県政世論調査とは別に令和元年度に実施したアンケート調査(以下、「県アンケート調査」という。)では、約2割の県民が「催し物の情報が得られない」ことを理由に文化芸術に触れていないと回答していることから、周知方法や事業内容の更なる工夫が必要です。

5つの施策の柱での成果と課題は次のとおりです。

## 【1 文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくり】

文化芸術活動を行う人々の自主性や創造性が十分尊重されるとともに、いつでもどこでも誰でも等しく文化芸術に触れ親しみ、鑑賞し、参加し、創造することができるよう、県立文化施設における演奏会や展覧会の実施等により、様々な機会を提供しました。

指標名	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
文化会館・美術館・博物館の入館者数 (※)	3,499,748 人	4,048,532 人	4,266,706 人	3,360,688 人	1,823,134 人	増加を目指す

※県内の文化会館における主催事業の入場者数及び美術館・博物館における全入場者数の合計。

入館者数は平成30年度までは増加傾向でしたが、令和元年度は、台風や新型コロナウイルス感染症の影響に伴う休館の影響により、入館者が減少しました。

今後も、様々な要因で、施設に人が集まることができない状況が起こり得ることから、どのような状況下でも文化芸術の鑑賞・活動を継続できるような環境づくりが求められています。

県アンケート調査では、「施設などで文化芸術を鑑賞（体験）しなかった理由」として、「仕事・育児・介護など忙しく鑑賞に出かける時間がない」が最も多く、次いで「興味のある内容の催しがない」との回答結果となりました。

子育て中や働き盛り世代でも関心を持ち、参加できるよう、事業内容の充実のほか、文化施設以外でも文化芸術に触れる機会を提供することが必要です。

## 【2 地域文化の保存・継承・活用による地域づくり】

郷土への愛着を育み、アイデンティティーが醸成されるよう、県立文化施設において伝統文化を体験する機会を提供しました。また、「日本遺産」の活用等により、担い手の育成、伝統文化や文化財の保存・継承、文化資源を活用した地域の活性化に努めました。

指標名	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
県立文化会館・美術館・博物館における伝統文化体験事業の参加者数	4,473 人	6,001 人	7,374 人	7,862 人	1,327 人	増加を目指す

県立文化会館・美術館・博物館で実施された伝統文化体験事業の参加者数は、年々増加しており、伝統文化への理解と関心を高めることに寄与していると考えられます。

一方で、県アンケート調査では、「自分が住んでいる地域の伝統芸能に担い手として参加しているか。又は参加したいか。」という設問に対し、「参加しているが今後は続けたいとは思わない」、「参加していないし今後参加したいとは思わない」という回答が約6割と多く、また、その理由は、「知っているが興味がない、又は楽しくない」という回答が約3割と最も多かったことから、県民が地域固有の伝統文化へ関心を持ち、参加したくなるような工夫が必要です。

また、令和元年度は台風15号で被災した文化財も多かったことから、地震や台風等の風水害への対策も課題となっています。

### 【3 ちば文化の多様性と発信力強化による新たな価値の創出】

地域の魅力を再認識するきっかけとなるよう、「ちば文化」の魅力を発信しました。また、多様な文化芸術の発展を図るため、若者の文化芸術活動等への支援を行いました。

指標名	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数	579,268 件	514,130 件	731,532 件	796,000 件	649,219 件	増加を目指す

県のホームページ内の「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムに関連するコンテンツの増加等により増加しました。大会終了後も、本県の文化資源への関心を持ち続けていただくためには、大会の文化プログラムに代わるコンテンツの充実が必要です。

県アンケート調査では、県が取り組むべき文化施策に対する意見として、積極的・効率的な広報・情報発信を求める声が多く寄せられたことから、発信力の更なる向上のため、情報の精査や内容の工夫が必要です。

また、SNSを含めたインターネットでの広報活動の充実のほか、紙媒体の活用も含め、発信する内容・対象者に合わせて適切なツールを活用していく必要があります。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等、情勢の変化に応じて、県の方針や国の支援制度等の周知を適切に行い、活動の継続を支援していくことも重要です。

### 【4 総合的な推進のための支援・連携体制の構築】

ネットワークの構築や支援体制の構築のため、県内の公立文化会館において、意見交換の場を設けたほか、市町村の施設関係者向け研修を行いました。また、多様な支援体制の構築のため、文化芸術分野のボランティアと希望者のマッチングを行いました。

指標名	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合	30.2%	30.6%	45.0%	49.2%	24.6%	50.0%

地域との連携等を目的とした意見交換の場を設けている文化会館の割合は増加傾向にありましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響等により減少しました。

しかしながら、人が集まることが制限される状況にあっても、地域で活動する団体や住民が、施設を自分達の地域の資源と捉え、支援者となることで、より一層文化芸術活動の活性化につながると考えられることから、多様な主体との情報交換や連携に、引き続き取り組むことが重要です。

また、施設の老朽化への対応、新型コロナウイルス感染症対策、限られた予算・人員での事業運営等、各施設に共通する課題もあることから、施設間のネットワーク構築による情報共有や事業連携等が必要になると考えられます。

## 【5 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたちばの文化力向上】

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の文化プログラムを観光等様々な分野と連携して実施することで、本県の文化的魅力を発信し、県内の文化芸術の振興を図りました。

指標名	実績					目標
	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 2年度
千葉県での「公認文化オリンピアド」に参加したアーティストの人数（累計）	380 人	18,525 人	36,341 人	53,600 人	54,302 人	増加を目指す

千葉県での「公認文化オリンピアド」に参加したアーティストの人数について、平成28年度は文化プログラムの本格実施前のため多くありませんでしたが、平成29年度から令和元年度にかけては、文化プログラムの事業数増加に伴って参加人数も伸び、大会開催に向けた機運醸成が図られてきました。

県でも、障害のある人もない人も共に出演者として参加する「千葉・県民音楽祭」やちばの文化的魅力を集めた「ちば文化資産」をテーマとした絵画・写真作品の応募等を行う「ちばアート祭」を実施し、あらゆる人々が観客としてだけでなく、参加・交流できる機会を創出してきました。

大会終了後は、これらの取組で得られたレガシーを活用し、本県の文化芸術活動の活性化につなげていくことが必要です。